

出雲大社相模分祠 秦野市平沢 1221

明治 21 年 (1888 年) に島根県御鎮座の「出雲大社」第 80 代国造・千家尊福公に請願して、当地累代の神職であり、報徳家であった草山貞胤翁が、出雲の大神の御分霊をこの地に鎮祭申し上げ、大国主大神の御神徳を関東地方に広めるための要処としたのをはじまりとします。御祭神は大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）、事代主大神（ことしろぬしのおおかみ）、合祀祭神 28 柱（兼務神社 23 社のご祭神）（説明書）



鳥居と茅の輪



本殿には恵比寿・大黒天・牛



手水舎の水は秦野盆地湧水



建物も立派



摂社も綺麗にされていた

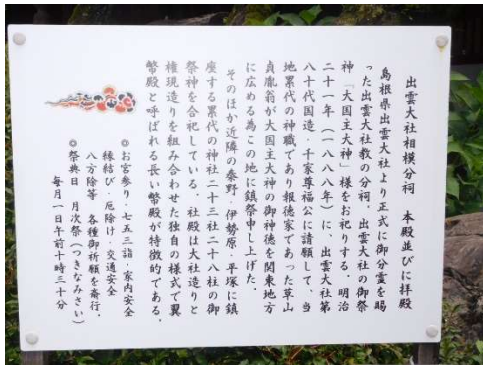




当地に当分祠を創設して積極的に神道布教につとめ初代社掌に就任しました。



祀られているのは幽冥宰大神(かくりごとしろしめすおおかみ)



中は暗くてよく見えなかった

由来説明書